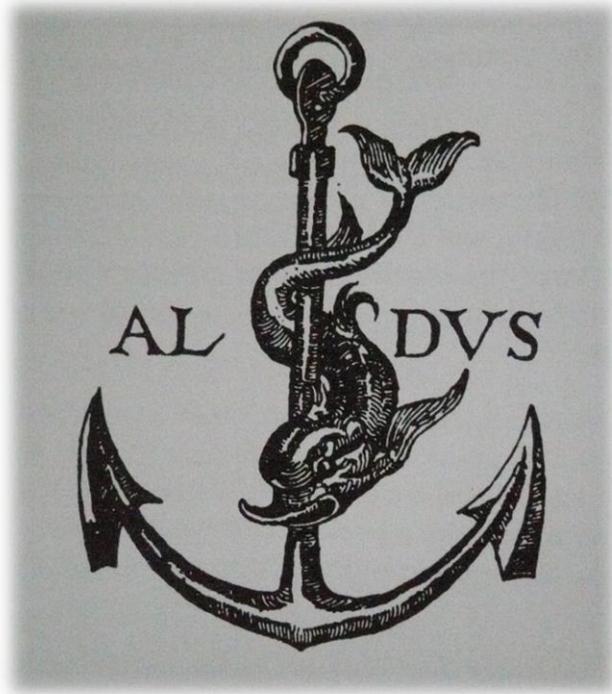


京都大学西洋古典学研究室
春休み読書会

アルドゥス・マヌーティウス『序文集』を読む



ヨーロッパにおける活版印刷術のひろがりとは東ローマ帝国の崩壊はほぼ同時期の出来事です。そしてこのときコンスタンティノープルを離れた知識人たちの多くを受け入れたのが当時の国際都市ヴェネツィアでした。彼らは活字制作や編集・校正などを通してヴェネツィアの出版文化に大きな貢献を果たしましたが、こうしたなかで自身の工房からギリシア古典作品の印刷初版（*editio princeps*）を数多く世に送り出したのがアルドゥス・マヌーティウス（c. 1451-1515）です。

今回は彼が自身の出版したギリシア古典作品に附した序文を読みます。ルネサンス期の出版事情や古典の受容史に関心のある方は是非ご参加ください。

第1回開催

日時：2016年2月8日 14:30（予定）

場所：西洋古典学研究室（文学部新館6階）

お問い合わせ・参加申し込みは以下まで。

zhuxia_1024@sepia.plala.or.jp（西洋古典学専修・修士2年 竹下）